

非英語専攻学習者の英語学習に対する意識調査

藤 田 恵里子*

Abstract

Almost all Japanese universities require students to complete some English courses before graduation. However, most non-English major students do not have urgent needs to acquire English, so it is difficult to maintain their motivations in these required English courses. This paper aims to reveal non-English major students' needs, purposes and attitudes for taking English courses so that we can better meet their needs and determine what should be done to make their English study more durable and potentially more enjoyable. A questionnaire was conducted in the first-year students' classes in the fall semester 2019 at Edogawa university and 354 responses were collected. The results show that the students understand the importance of English and have an intention to study but have not started yet because they do not know how. For this reason, many of them feel that they need to reinforce their fundamental English knowledge, especially grammar and vocabulary. Different from the previous studies by other researchers, which revealed students' interests in English conversation, the students at Edogawa university want to improve their reading skills and they prefer traditional teaching methods rather than relatively new ones. This may stem from their fear of new challenges and lack of confidence. Based on these results, it is concluded that we need to teach students fundamental English knowledge and learning strategies. Simultaneously, we also need to provide affective support for them.

キーワード：非英語専攻学習者, 学習意識, 受講目的, 学習したい内容

1. はじめに

本校には英語もしくは外国語を専門とする学科は存在しないが、全学科の学生が卒業までに外国語科目を6単位以上取得しなくてはならない。本校における1年次配当の英語科目には、英語I(前期)と英語II(後期)があるが、2019年度前期の英語Iの履修登録者数は入学者679人中627名、後期の英語II履修登録者数は601人と、全体の約9割の学生が少なくとも1年次の間は英語を受講していることになる。他大学においても英語が必修である場合は多く、単位取得のみを目的として英語を受講する学生の学習意欲の維持が問

題になっている。学習者自身が学びたいことを学ぶことが学習意欲の維持向上に役立つ(牧野・平野, 2015)という研究結果に基づけば、本校の英語受講者の学習意欲を維持向上させるためには、彼らの受講目的、学習したい内容を把握し、プログラムに反映していく必要がある。

2. 背景

大半の大学において、専攻に関わらず英語は必修科目となっており、英語を受講せずして大学を卒業するのは難しい。しかしながら、少し古いデータではあるが、2008年時点で仕事に英語を「よく使う」「時々使う」人の割合は13.2%で、決して高いとは言えない(寺沢, 2015)。2010年の調査ではさらに範囲を広げて検証し、過去1年間

2019年11月30日受付

* 江戸川大学 基礎・教養教育センター助教 英語教育

に仕事だけでなく個人的な目的も含めて「全く」英語を使わなかった人の割合は58.4%と半数以上であった(寺沢, 2015)。つまり, せっかく学習しても社会に出てから英語を使う機会はあまりないというのが現状のようである。英語専攻であれば, 将来の仕事や生活で英語を使うことを想定している可能性が高く, 内発的動機づけが期待できる。しかし, 英語非専攻の学習者は, 将来英語を使う予定がない上に, そもそも英語に興味もない可能性が高く, 学習意欲を維持するのに苦勞することは容易に想像できる。特に, 学習者が元々何らかの目的を持っている英会話スクールや塾とは異なり, 学校における英語教育では, 多様な学習者の実態, ニーズ, 目的意識を把握し, それに基づいて授業を展開することが不可欠である(Jacet 教育問題研究会, 2019)。

非英語専攻の大学生を対象に英語受講目的を調査した専攻研究は複数見られ, いずれも「単位取得」が最多となっている(ペニントン, 2012; 牧野, 2016; 牧野・平野, 2015)。ペニントン(2012)では, 学習目的を言語目的, 教養目的, 功利目的, 理想目的の4つに分類し, 功利目的の学生が最多であるという結果を示している。複数ある功利目的の中でも, 特に多かったのが「単位取得」という結果であった。牧野(2016)では, 受講目的と英語への好意, 習熟度の関連を検証し, 何らかの目的を持って英語力の育成を目指している学習者は英語が好きで習熟度が高く, 「単位取得」, 「目的はない」とした学習者はその逆である傾向が見られた。

牧野・平野(2015)では, 受講目的に伴わせて学習者が学びたい項目に関する調査も行い, リスニングやスピーキングのようなコミュニケーション能力を身につけたい学習者が多いという結果を示している。逆に, 中学や高校の学習内容や授業方法を繰り返すことに対する否定傾向も見られた。平野・牧野(2014)においても同様に音声活動の指導を求める学生が最も多く, 一方でコミュニケーションに関連が低く見える活動(発音, 語彙, 文法)を望む学生が最も少なかった。阿川他(2011)では, 大学生の英語学習における学習動

機減退要因を調査し, 「英語への苦手意識」, 「英語使用への不安」, 「文法, 語彙学習への抵抗感」を挙げていた。濱田(2013)では, 高校生対象に学習動機減退要因調査を行い, 学習動機の高低に関わらず, 伝統的教授法が学習減退の要因となるという結果を示している。

本校の学生の場合も, 先行研究で調査対象となった他大学の学生同様, 学習目的は「単位取得」, 学習したい内容は「コミュニケーション」なのだろうか。そして, 他大学の学生同様, 中高で行われている伝統的教授法は望んでいないのだろうか。今後本校の英語受講者のニーズに合った授業を展開していくために, 彼らの受講目的と学習したい内容を明らかにしたい。

3. 研究目的

本稿では, 一般教養英語を受講する大学1年生の英語学習に対する姿勢, 受講目的, 学習したい内容を明らかにし, 彼らの実態とニーズにあった英語授業を検討することを目的としている。

4. 調査概要

4.1. 調査協力者

本調査は, 2019年度後期に開講されている1年生対象の英語Ⅱの24クラス中, 担当教員の協力が得られた20クラスで実施し, 354名(履修登録者全体の6割程度)から回答を得た。英語Ⅱを受講していないことも学科以外の5学科が対象であった。学科ごとの回答者数及び割合を表1に示す。

表1 回答者数及び割合

| 学科 | 人間 心理 | 現代 社会 | 経営 社会 | マス コミ | 情報 文化 | 合計 |
|-------|----------|----------|----------|----------|----------|-----|
| 人数(人) | 64 | 55 | 80 | 68 | 87 | 354 |
| 割合(%) | 18.08 | 15.54 | 22.60 | 19.21 | 24.58 | 100 |

4.2. 実施方法

2019年度後期, 英語Ⅱの授業内で授業担当者

に調査説明書を配布してもらい、Google Formを利用して回答を回収した。調査説明書において、調査の参加は任意であり、参加の有無、回答内容によって今後の授業参加や成績に影響はないこと、回答内容と個人の氏名を照合しないこと、また、個人情報の管理には細心の注意を払い、結果を発表する際には個人が特定できないようにすることを約束した。その上で、同意した学生にのみGoogle Formにて、記名の上回答させた。回答に要した時間は、10分程度であった。

4.3. 材料

質問項目は、「回答者情報(3問)」、「I. 英語・英語授業に対する意識(Attitude: 14問)」、「II. 英語の受講目的(Purpose: 10問)」、「III. 英語の技能(Skills: 11問)」、「IV. 英語の授業(Class: 22問)」、「V. その他」の6つに分類して提示された(資料1)。回答には、1(全然そう思わない)~4(とてもそう思う)のリッカートスケール4件法を用いた。あえて偶数のスケールを用いたのは、回答者が安易に中立的な回答を選び、回答が真ん中に偏ることを回避するためである(ドルニエイ, 2006)。ただし、「III. 英語の技能」の中でも特に、学習者の自覚として4技能それぞれが得意だと感じているかどうかを問うた質問に関しては、回答者が謙虚すぎていずれも低い数値が出てしまう可能性が考えられた。そのため、他の質問項目と回答方法は異なるが、「一番得意だと思う技能」及び「一番苦手だと思う技能」として4技能(ライティング, リーディング, スピーキング, リスニング)の中から一つを選ぶ質問をセクション末尾に用意した。また、自由記述式の回答欄を、「II. 英語の受講目的」、「IV. 英語の授業」のセクション末尾に、さらに「V. その他(プログラム全体に関する意見)」として巻末に設けた。特に、「I. 英語・英語授業に対する意識」に関しては、項目を読まずにすべて同じ数値を選ぶことを防ぐために、いくつかの項目を否定的な印象の表現を使用した逆転項目としている。

4.4. 分析

いずれの質問項目も記述統計にて結果を示す。リッカートスケール4件法で回答させた質問項目に関しては、平均値、標準偏差を示す。また、各質問項目の平均点が2以下を「否定傾向」、3以上を「肯定傾向」として合算し、それぞれの割合を示す。いずれの質問項目も、各セクション内で平均値が高い順に並べて提示している。

5. 結果と考察

5.1. 英語・英語授業に対する意識

英語・英語授業に対する意識と関わる14項目に関して、内的整合性を検証するために、逆転項目の数値を反転したうえで信頼係数を求めたところ、クロンバック α の値は $\alpha = 0.87$ となり、十分な内的整合性が認められた。英語・英語授業に対する意識に関する質問項目の記述統計を表2に示す。

表2の結果から、最も特徴的だったのは、ほぼ全ての学生が「英語ができると将来役に立つ(96.25%)」と考えており、英語の有用性を認めていることである。さらに、85.59%の学生が英語学習の目的を理解しているということがわかった。英語に対する感情としては、84.18%が苦手であると感じているのに対し、授業が苦痛だ(36.72%)、もしくはできれば英語を避けたい(42.09%)というように英語に対してネガティブな感情を抱いている割合は半分以下である。同様に海外(64.48%)や外国語(58.48%)というような英語と関連する要素に関しても半数以上が関心を持っているということがわかる。

英語学習に関しては、積極的に勉強したいと思っている回答者が半数を超えている(64.69%)にもかかわらず、自身で課題を見つけて勉強している学習者は2割しかいない。また、約7割が単語や文法を覚えたりすることを面倒だと感じている。

本調査対象者は、英語が苦手であると感じている割合が高いものの、英語学習や英語そのものに

表2 英語・英語授業に対する意識に関する記述統計

| 質問内容 | M | SD | 肯定傾向 (%) | 否定傾向 (%) |
|----------------------------|------|------|----------|----------|
| A5 英語ができると将来役に立つと思う。 | 3.63 | 0.60 | 96.25 | 3.96 |
| A10 英語は難しい。* | 3.40 | 0.77 | 87.85 | 12.15 |
| A12 単語や文法を覚えたりするのが面倒くさい。* | 2.87 | 0.86 | 68.28 | 31.92 |
| A13 海外に興味がある。 | 2.85 | 1.06 | 64.41 | 35.59 |
| A6 積極的に英語を勉強したい。 | 2.77 | 0.80 | 64.69 | 35.31 |
| A14 外国語に興味がある。 | 2.74 | 1.00 | 58.48 | 41.53 |
| A1 英語は好きだ。 | 2.42 | 0.87 | 47.18 | 52.83 |
| A3 英語の授業は好きだ。 | 2.38 | 0.83 | 44.35 | 55.65 |
| A8 授業や宿題以外に自主的に英語の勉強をしたい。 | 2.33 | 0.94 | 42.37 | 57.63 |
| A4 英語の授業は苦痛だ。* | 2.31 | 0.85 | 36.72 | 63.28 |
| A9 できれば、英語は避けたい。* | 2.31 | 1.04 | 42.09 | 57.91 |
| A7 授業や宿題以外に自主的に英語の勉強をしている。 | 1.79 | 0.85 | 20.62 | 79.38 |
| A2 英語は得意だ。 | 1.77 | 0.78 | 15.82 | 84.18 |
| A11 英語学習の目的がわからない。* | 1.76 | 0.81 | 14.41 | 85.59 |

*逆転項目

対して否定的な感情を抱いている割合は比較的低く、英語学習に関わる要素である海外や外国語に対する関心も低くない。一般的に英語が苦手な学習者は、海外にも外国語にも興味がなく、総じて学習意欲が低くなる傾向が見られるが、本調査対象者に関しては、その傾向は見られなかった。このことから、学習意欲の維持向上はそれほど難しくないことが予測される。一方で、学習の必要性を感じていながら、実際に勉強している学生は少ない。これは、何を勉強すべきか、どのように勉強すれば効率のかといった、学習方略を知らないことが原因である可能性が考えられる。したがって、受講者の学習意欲を無駄にしないためにも、授業内で学習方略や教材を紹介する必要があるだろう。

5.2. 英語の受講目的

次に、英語の受講目的に関して、自由記述の項目以外の9項目の内的整合性を求めるために、信頼係数を産出したところ、クロンバックの値は $\alpha = 0.75$ となり、十分な内的整合性が認められた。表3に受講目的に関する項目の平均及び標準偏差を示す。

他大学で実施された先行研究（ベニントン、

2012；牧野，2016；牧野・平野，2015）と同様に、最も多かった受講目的は、「単位を取るため（88.70%）」であった。これに「就職に役立てるため（80.23%）」、「旅行のときなど、日常会話程度の英語力を身につけるため（75.99%）」が続いた。2番目に多かった「就職に役立てる」ことを念頭においている学習者は8割程度いるものの、「資格試験を取得する」ことを考えている人は5割程度にとどまっている。この結果から、就職活動の際には、資格試験を取得することで英語力を可視化しなければ他者に認められないということ把握していない可能性が示唆された。就職活動の際に英語力を示すためには、資格試験取得が必要であることを教員から改めて伝える必要があるだろう。さらに、英語を「就職に役立てる」ことを考えている一方で、仕事（44.63%）や専門分野の知識探求（40.96%）に役立てることは考えてないようである。つまり、英語は仕事を得るための手段に過ぎず、英語力そのものを活かして何かをするという考えはないようである。

最後に、自由記述欄に書かれた受講理由には、少数ではあるが、外国人旅行者や外国人材への対応といった、日本国内で英語を活用する可能性を示唆する回答も見られた。

表3 英語の受講目的に関する記述統計

| | 質問内容 | M | SD | 肯定傾向 (%) | 否定傾向 (%) |
|----|-----------------------------|------|------|----------|----------|
| P8 | 単位を取るため。 | 3.40 | 0.77 | 88.70 | 11.30 |
| P2 | 就職に役立てるため。 | 3.09 | 0.84 | 80.23 | 19.77 |
| P5 | 旅行のときなど、日常会話程度の英語力を身につけるため。 | 3.06 | 0.93 | 75.99 | 24.01 |
| P6 | 国内外の情報を収集できる英語力を身につけるため。 | 2.70 | 0.96 | 61.30 | 38.70 |
| P9 | みんなが受講しているから。 | 2.64 | 1.03 | 58.19 | 41.81 |
| P7 | 海外の人と友達になれるような英語力を身につけるため。 | 2.63 | 0.97 | 57.91 | 42.09 |
| P4 | TOEIC や英検などの資格試験のため。 | 2.50 | 1.02 | 49.72 | 50.28 |
| P1 | 海外で仕事や生活ができるようになるため。 | 2.39 | 1.04 | 44.63 | 55.37 |
| P3 | 専門の文献を読めるようになるため。 | 2.27 | 0.93 | 40.96 | 59.04 |

表4 英語の技能に関する記述統計

| | 質問内容 | M | SD | 肯定傾向 (%) | 否定傾向 (%) |
|----|--|------|------|----------|----------|
| 現状 | S2 リーディングが得意だ。 | 2.12 | 0.87 | 31.36 | 68.64 |
| | S4 リスニングが得意だ。 | 2.03 | 0.89 | 27.40 | 72.60 |
| | S1 ライティングが得意だ。 | 1.94 | 0.85 | 23.16 | 76.84 |
| | S3 スピーキングが得意だ。 | 1.86 | 0.81 | 19.21 | 80.79 |
| 今後 | S6 英語で読めるようになりたい。 | 3.30 | 0.78 | 85.03 | 14.97 |
| | S7 英語で会話ができるようになりたい。 | 3.25 | 0.87 | 80.23 | 19.77 |
| | S5 英語で書けるようになりたい。 | 3.19 | 0.83 | 79.94 | 20.06 |
| | S9 英語で聞けるようになりたい (ラジオを聞いたり、映画を字幕なしで見たり)。 | 3.15 | 0.92 | 76.84 | 23.16 |
| | S8 英語でプレゼンテーションやスピーチができるようになりたい。 | 2.57 | 1.04 | 53.11 | 46.89 |

5.3. 英語の技能

英語の技能に関して、質問形式が異なる2項目以外の9項目の内的整合性を検証するために、信頼係数を産出したところ、クロンバックの値は $\alpha = 0.81$ となり、十分な内的整合性が認められた。表4に受講目的に関する項目の平均及び標準偏差を示す。

現在の英語力に関しては、予測に反せずいずれの技能も得意でないと認識している傾向が見られた(表4)。セクション末に設けた、4技能の中で最も得意な技能を1つ答えさせた質問を見ると、リーディング(33%)やリスニング(33%)といったインプットを得意と感じている割合が高かった(図1)。一方、最も苦手な技能を問うた質問では、ライティング(40%)、スピーキング(28%)といったアウトプットを苦手とする割合が高かった(図2)。これは中高での学習が一般的

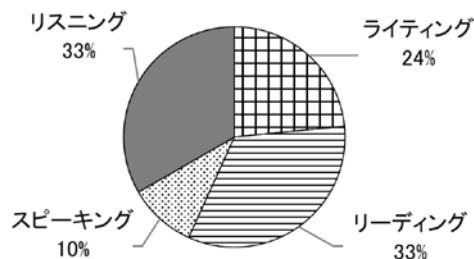


図1 最も得意な技能

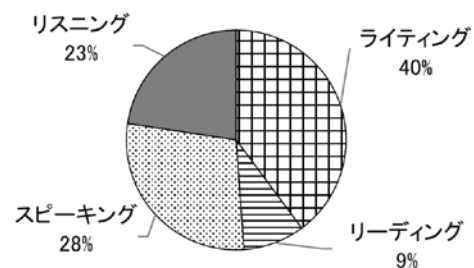


図2 最も苦手な技能

表5 英語の授業に関する記述統計

| 質問内容 | | <i>M</i> | <i>SD</i> | 肯定傾向 (%) | 否定傾向 (%) |
|------------------|------------------------------------|----------|-----------|----------|----------|
| 授業の内容 | C1 映画など映像を見たい。 | 3.40 | 0.80 | 87.85 | 12.15 |
| | C8 語彙を教えてほしい。 | 3.01 | 0.88 | 73.45 | 26.55 |
| | C11 英語の学習方法を教えてほしい。 | 2.99 | 0.92 | 72.88 | 27.12 |
| | C7 文法を教えてほしい。 | 2.95 | 0.92 | 71.75 | 28.25 |
| | C12 中学校や高校の内容の復習をしてほしい。 | 2.83 | 0.92 | 65.25 | 34.75 |
| | C9 会話の練習をしてほしい。 | 2.70 | 0.94 | 58.19 | 41.81 |
| | C4 海外の文化を教えてほしい。 | 2.67 | 0.97 | 58.48 | 41.53 |
| | C2 歌を聞いたり、歌ったりしたい。 | 2.63 | 1.05 | 54.80 | 45.20 |
| | C13 英語の本を自分のペースで、自由にたくさん読みたい (多読)。 | 2.61 | 0.95 | 54.24 | 45.76 |
| | C3 TOEIC や英検など資格対策をしてほしい。 | 2.61 | 1.01 | 54.52 | 45.48 |
| 授業の形式 | C5 海外の時事問題を扱ってほしい。 | 2.40 | 0.97 | 44.35 | 55.65 |
| | C6 日本の時事問題を扱ってほしい。 | 2.22 | 0.93 | 34.18 | 65.82 |
| | C10 学術的、専門的な英文を扱ってほしい。 | 2.18 | 0.92 | 32.49 | 67.51 |
| | C20 英文を日本語に訳したい。 | 2.71 | 0.96 | 61.58 | 38.42 |
| | C15 授業は講義形式がいい (先生が話し、学生は聞く)。 | 2.68 | 0.98 | 56.78 | 43.22 |
| | C16 一人で練習問題などの課題に取り組みたい。 | 2.46 | 0.96 | 46.33 | 53.67 |
| | C19 小テストはあったほうがいい。 | 2.19 | 0.99 | 38.42 | 61.58 |
| | C18 グループワーク (3人以上でする課題) を入れてほしい。 | 2.09 | 1.03 | 33.33 | 66.67 |
| | C14 スカイプなどを利用して、海外の大学生と交流したい。 | 2.08 | 1.00 | 30.51 | 69.49 |
| | C17 ペアワーク (2人でする課題) を入れてほしい。 | 2.07 | 0.98 | 34.18 | 65.82 |
| C21 授業は英語でしてほしい。 | 1.74 | 0.89 | 18.08 | 81.92 | |

にインプットに重点を置いていて、学習者自身もインプットに慣れていることが原因として考えられる。

今後伸ばしたい能力で最も多かったのは、「リーディング (85.03%)」、次いで「会話 (80.23%)」という結果になった (表4)。学習者は特にプレゼンテーションやスピーチのように人前で話す能力の育成は他技能ほど望んでいないといえる。僅かながら会話よりもリーディング能力の育成を望んでいるということが明らかになり、コミュニケーション能力を伸ばしたいという他大学における先行研究 (牧野・平野, 2015) とは異なる結果となった。

5.4. 英語の授業

自由記述の項目以外の英語の授業に関する21項目の内的整合性を求めるために、信頼係数を産出したところ、クロンバックの値は $\alpha = 0.86$ と

なり、十分な内的整合性が認められた。表5に受講目的に関する項目の平均及び標準偏差を示す。なお、セクション末に自由記述式で学びたい内容を書く欄を設けていたが、表5の質問項目と異なる回答は見られなかったため、割愛する。

授業で扱ってほしい内容に関して、本調査対象者は、映画などの映像を使ってほしいという学習者が最も多かった (87.85%)。次いで、語彙、文法、学習方法、さらには中高の内容を復習すること望んでいる学習者が多く、それぞれ約7割に上った。中高の復習を望む声が多かった今回の結果は、学生は中高で学習した内容を再学習することを望んでいない (平野・牧野, 2014)、語彙・文法中心の授業は学習意欲減退の原因になる (阿川他, 2011; 濱田, 2013) という先行研究とは相反するものとなった。本調査対象者は5.1の結果に示されたように、英語が苦手だけれども、できるようになりたいと思っており、そのためには中

高で学習したような語彙・文法といった基礎力が重要であると認識しているようだ。また、そのために有益な学習方法も知りたいという前向きな姿勢を持っているということがわかる。

5.2. では「海外の人と交流して友達になるため」に英語を受講していると回答した学生が6割弱いたにもかかわらず、授業で「スカイプなどを利用して、海外の大学生と交流したい」学生は3割しかいなかった。ここには矛盾があるように感じられるが、「リーディングを伸ばしたい(85%)」、「国内外の情報を収集するため(62%)」に英語を学習しているという結果と合わせて考えれば、彼らは普段の生活でも慣れ親しんでいるSNSやインターネットを通じた交流や情報収集を想定している可能性がある。これを踏まえれば、本調査対象者は、スカイプ(音声)ではなく、SNS(文字)を使って海外の大学生と交流することには関心があるかもしれない。英語授業内においても、彼らが日常生活で慣れ親しんでいるこれらのツールを上手に活用することで、より積極的な学習関与を促せることが予測される。

授業内での学習形式に関しても、訳読式(61.58%)や講義形式(56.78%)のような、中高でも実践されている比較的伝統的教授法を好む傾向にあることがわかった。また、高校の英語の授業は英語で行うことを基本とすることが2013年施行の指導要領に組み込まれており、現大学1年生は高校3年間、英語で英語の授業を受けたことが予測される。しかし、英語による授業も比較的新しい試みのせいか、8割の学生が否定的であった。このように、慣れているものを好み、逆に慣れていないものに対して抵抗感を持つ傾向があるようである。

最近では、中高でもグループワークやペアワークなどの協同学習を通じてコミュニケーション能力の育成を図る活動を多く取り入れるようになってきている。協同学習も講義形式・訳読中心の授業に比べれば目新しいせいか、6割強の学生が否定的であった。文法学習を望み、会話練習には欠かせない協同学習には否定的であるという傾向に基づけば、彼らは英語を学習の対象と捉えており、他者

とのコミュニケーションのためのツールという認識が薄い可能性が考えられる。

学習内容・形式の両者において、学習者は中高で行われてきたオーソドックスなものを好む傾向にあるという結果になった。その根底には、目新しいことに挑戦することへの不安があるのではないだろうか。また、協同学習に対して否定的なもの、自信がないことに起因する可能性がある。教員の適切な指導のもとで新しいことに挑戦させ、多くの成功体験をさせることで、新しい試みや英語そのものに対する不安感を取り除き、自信を高めるといった情意面での支援も必要と考えられる。さらに、学生自身はあまり望んでいないようだが、コミュニケーション活動を通じて、英語で会話が成立したときの達成感を感じることが自己効力感の向上にもつながり、英語がコミュニケーションのツールであるという認識を強化することになるのではないだろうか。

5.5. その他

英語プログラム全体に対する要望を自由に書けるよう、巻末に自由記述欄を設けた。似通った内容のコメントをひとまとめにし、表6に示す。複数名が書いた、表6に示した要望はいずれも、5.1.~5.4. に選択肢として用意した内容と重なるが、「プログラム全体への要望」として改めて回答していることから特に望んでいるものとみなし、記載する。表6に示す要望以外に、「習熟度別のクラス分けをしてほしい」、「授業内容が先生によって特徴があるのだから、先生を自由に選びたい」(各1件)といった意見もあった。特に習熟度別のクラス分けにすることは、表6の1及び4のように対極にある両社の要望を叶えることにつながると考えられるし、また学びたい内容を自

表6 英語プログラム全体への要望

- | |
|----------------------------|
| 1. 基礎からの学びなおしをしたい (5件) |
| 2. 会話の練習をしたい、外国人と話したい (4件) |
| 3. 洋画を見たい (3件) |
| 4. もっと難しい内容を勉強したい (2件) |
| 5. グループワークを入れてほしい (2件) |

身で選べるようにすることは、多様な学生のニーズに合わせてることにつながり、表6の2, 3, 5を取り入れやすくなるだろう。

6. まとめ

本稿では、一般教養の英語科目を受講している学習者を対象に、英語の受講目的と、学習したい内容に関するアンケート調査を実施し、学習者が英語の授業に何を望んでいるのかを明らかにすることを目的とした。その結果、調査協力者は英語の有用性を感じているものの苦手意識があること、また、自主的に学習したいと思っているが、行動には移せていないという実態がわかった。また、授業内容に関しては、語彙・文法、一人で問題に取り組むといった、中高でも採用されていたであろうオーソドックスなものを好むということがわかった。以上を踏まえ、授業内で、中高で学習した内容も含めた、文法・語彙等の基礎力の強化を図り、学習方略及び教材を紹介するなどの対応が不可欠であろう。さらに、学生自身はオーソドックスな方法を好む傾向はあるものの、英語がコミュニケーションのツールであるという認識を高め、「使える英語」習得への意欲も高めるために、協同学習やSNSなども活用し、より現実的なやり取りへと発展させるという方略の導入も検討したい。基礎力強化及びコミュニケーション活動を行うことは、自己効力感を高め、挑戦することに対する不安感を取り除くという情意面での支援にも役立つことが期待できる。最後に、英語を就職に役立てたいという気持ちはあるものの、就職に必要な資格試験受験に対する意識が低かったり、会話ができるようになりたいという気持ちはあるものの、会話練習に必要な協同学習は望んでいなかったりするというように、矛盾が見られ

た。資格試験や協同学習がそれぞれ就職や会話力向上のためには不可欠であることを教員が明示的に示し、根本的な意識改革を図る必要があるだろう。

今後の課題としては、本研究では記述統計のみの検証であったが、今後は様々な方向から統計的な分析を行い、記述統計だけでは見えない傾向を明らかにしたい。また、現在、外国語必要単位数を満たすと英語を受講しない学習者が多く見られ、2年次以降英語受講者が激減する傾向にある。この理由を解明すべく、2年次以降の受講者、もしくは逆に非受講者の意識調査も行うことで、英語の継続的受講を促す術を探っていきたい。

参考文献

- 阿川敏恵・阿部恵美佳・石塚美佳・植田麻実・奥田祥子・カレイラ順子・佐野富士子・清水順. (2011). 「大学生の英語学習における動機減退要因の予備調査」『The Language Teacher』35(1), 11-16.
- 寺沢拓敬. (2015). 『日本人と英語の社会学』東京：研究社.
- 濱田陽. (2013). 「高校生の英語学習における動機減退防止ストラテジー」『リメディアル教育研究』8(1), 117-126.
- 平野順也・牧野眞貴. (2014). 「習熟度の低い大学生を対象とした英語授業意識調査(動機づけのヒントを求めて)」『言語エキスポ2014 予稿集』36-37.
- ベニントン和雅子. (2012). 「学習者が大学で「英語」を学習する目的意識の調査報告」『西南学院大学言語教育センター紀要』2, 3-19.
- 牧野眞貴. (2015). 「英語学習目的に見る学習者の特性について」『リメディアル教育研究』11(2), 191-195.
- 牧野眞貴. (2016). 「英語リメディアル教育を必要とする大学生を対象とした英語学習意識調査」『近畿大学教養・外国語教育センター紀要. 外国語編』6(1), 39-55.
- JACET 教育問題研究会(編). (2019). 『行動志向の英語科教育の基礎と実践—教師は成長する—』東京：三修社.

資料1 アンケート調査質問項目

I. 英語・英語授業に対する意識

- A1. 英語は好きだ。
- A2. 英語は得意だ。
- A3. 英語の授業は好きだ。
- A4. 英語の授業は苦痛だ。*
- A5. 英語ができると将来役に立つと思う。
- A6. 積極的に英語を勉強したい。
- A7. 授業や宿題以外に自主的に英語の勉強をしている。
- A8. 授業や宿題以外に自主的に英語の勉強をしたい。
- A9. できれば、英語は避けたい。*
- A10. 英語は難しい*。
- A11. 英語学習の目的がわからない。*
- A12. 単語や文法を覚えたりするのが面倒くさい。*
- A13. 海外に興味がある。
- A14. 外国語に興味がある。

*逆転項目

II. 英語の受講目的

- P1. 海外で仕事や生活ができるようになるため。
- P2. 就職に役立てるため。
- P3. 専門の文献を読めるようになるため。
- P4. TOEIC や英検などの資格試験のため。
- P5. 旅行のときなど、日常会話程度の英語力を身につけるため。
- P6. 国内外の情報を収集できる英語力を身につけるため。
- P7. 海外の人と友達になれるような英語力を身につけるため。
- P8. 単位を取るため。
- P9. みんなが受講しているから。
- P10. その他（自由記述）

III. 英語の技能

- S1. ライティングが得意だ。
- S2. リーディングが得意だ。
- S3. スピーキングが得意だ。
- S4. リスニングが得意だ。
- S5. 英語で書けるようになりたい。
- S6. 英語で読めるようになりたい。
- S7. 英語で会話ができるようになりたい。
- S8. 英語でプレゼンテーションやスピーチができるようになりたい。
- S9. 英語で聞けるようになりたい（ラジオを聞いたり、映画を字幕なしで見たり）。
- S10. 上記4技能の中で最も得意な技能を1つ選んでください（あくまで他技能と比較して）
ライティング、リーディング、スピーキング、リスニング
- S11. 上記4技能の中で最も苦手な技能を1つ選んでください。（あくまで他技能と比較して）
ライティング、リーディング、スピーキング、リスニング

IV. 英語の授業

- C1. 映画など映像を見たい。
- C2. 歌を聞いたり、歌ったりしたい。
- C3. TOEIC や英検など資格対策してほしい。
- C4. 海外の文化を教えてほしい。
- C5. 海外の時事問題を扱ってほしい。
- C6. 日本の時事問題を扱ってほしい。
- C7. 文法を教えてほしい。
- C8. 語彙を教えてほしい。
- C9. 会話の練習をしてほしい。
- C10. 学術的、専門的な英文を扱ってほしい。
- C11. 英語の学習方法を教えてほしい。
- C12. 中学校や高校の内容の復習をしてほしい。
- C13. 英語の本を自分のペースで、自由にたくさん読みたい（多読）。
- C14. スカイプなどを利用して、海外の大学生と交流したい。
- C15. 授業は講義形式がいい（先生が話し、学生は聞く）。
- C16. 一人で練習問題などの課題に取り組みたい。
- C17. ペアワーク（2人でする課題）を入れてほしい。
- C18. グループワーク（3人以上でする課題）を入れてほしい。
- C19. 小テストはあったほうがいい。
- C20. 英文を日本語に訳したい。
- C21. 授業は英語でしてほしい。
- C22. その他（自由記述）

V. その他

英語プログラムに関して、ご意見、ご要望等あれば、自由に記入してください。